



富士フイルムホールディングス株式会社

# 個人投資家向け会社説明会

2024年1月25日

証券番号 4901

**NEVER  
STOP**

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

---

## 01. 富士フイルムグループについて

---

## 02. 成長を牽引する事業

---

## 03. 直近の業績

---

## 04. 株主還元・株主優待

---

## 05. 参考情報



## 01. 富士フイルムグループについて

# 富士フイルムグループとは？



設立

1934年

写真・映画用フィルムの国産化を目指し設立

90周年

時価総額

3兆4,735億円

(2023年11月末時点)

売上高

2兆8,590億円

(2022年度/前年比+13.2%)



海外  
売上比率  
64%

営業利益

2,731億円

(2022年度/前年比+18.9%)



連結従業員数

73,878名

連結子会社数

273社



銀塩写真の研究開発で培った  
世界トップレベルの技術力

👉 P29 「富士フイルムの独自技術」

FUJIFILM

Value from Innovation

世界における  
ブランド認知度

95%

(当社調べ)

パテント・リザルト社  
「他社牽制ランキング2022」

化学業界 1位

2012年以降、12年連続1位を獲得

# 富士フイルムグループ° 4つの事業セグメント

## ヘルスケア

### ● メディカルシステム

医療ITシステムを中心にX線画像診断や内視鏡等の各種診断機器を提供

### ● バイオCDMO

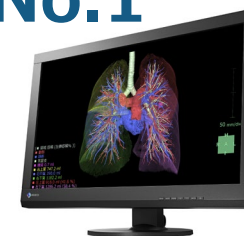
抗体医薬品や遺伝子・細胞治療薬など高品質なバイオ医薬品のプロセス開発・製造を受託

### ● LSソリューション

創薬支援分野における細胞・培地・試薬のトータルソリューション、次世代医薬品やmRNAワクチンなどのプロセス開発・製造受託、「ASTALIFT」ブランドなどの機能性化粧品やサプリメントを提供

医用画像情報システム (PACS)  
世界シェア

**No.1\***



## マテリアルズ

### ● 電子材料

半導体を製造する際に使用される各種材料を提供

### ● ディ스플레이材料

偏光板保護フィルムなど、液晶パネルや有機ELパネル向け材料を提供

### ● 他高機能材料

タッチパネル用センサーフィルムや記録メディア、高機能化成品、研究開発用試薬などを提供

### ● グラフィックコミュニケーション

オフセット印刷用機材やデジタル印刷システム、インクジェット関連製品を提供

## 高機能材料

偏光板保護フィルム  
世界シェア

**No.1\***



イメージセンサー用  
カラーレジスト世界シェア

**No.1\***



# 富士フイルムグループ 4つの事業セグメント

## ビジネスイノベーション

### ● オフィスソリューション

複合機・プリンターや消耗品の販売、保守サービスを通じて、ドキュメントに関わるオフィス向けソリューションを提供

### ● ビジネスソリューション

業種・業務の特性に合わせた、システムインテグレーションやクラウドサービスによるソリューション、複合機管理や基幹業務プロセスの役務代行（BPO）など、お客様のDX（デジタル・トランスフォーメーション）を成功に導くソリューション・サービスを提供

A3カラー複合機  
アジア・パシフィック地域における  
販売台数シェア

**No.1**\*



\* 当社調べ

## イメージング

### ● コンシューマーイメージング

INSTAX“チェキ”やカラーフィルム、写真プリント用カラーペーパー、現像・プリント機器、写真プリントサービスなどを提供

### ● プロフェッショナルイメージング

独自の色再現技術による高画質が特徴のミラーレスデジタルカメラのほか、TV放送・映画用レンズ、セキュリティカメラや製造ライン検査向けの産業用レンズ、プロジェクター、デジタルサイネージなどを提供

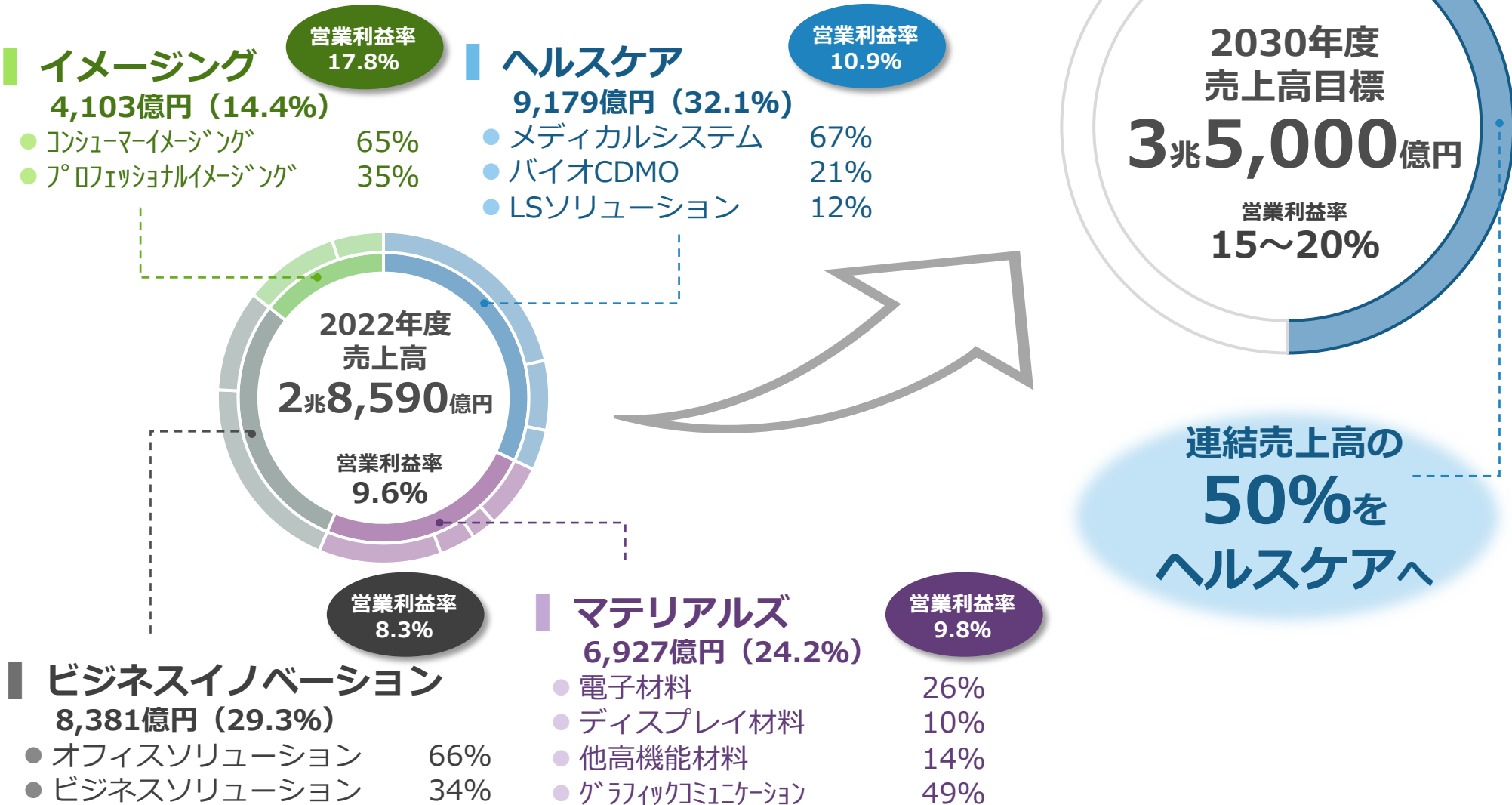
インスタントフォトシステム“チェキ”  
グローバル累計販売台数

**8,000万台以上**



# 富士フイルムグループの事業ポートフォリオ

## 事業セグメント別 連結売上高構成比 (2022年度)



# 過去20年間における成長領域への積極的な投資

2000年代前半の写真フィルム市場の急激な縮小を背景に、事業構造を転換  
ヘルスケアと高機能材料を成長の柱とし、両分野へ積極的な設備投資やM&Aを実施

## 2000年代 成長領域の 探索期

写真フィルム市場の急激な縮小を  
背景に技術の棚卸を実施

- 今後の成長領域として  
ヘルスケアの事業分野を拡大

### ヘルスケア

- 【2008】 富山化学工業買収  
医薬品事業に本格参入
- 【2006】 機能性スキンケア化粧品発売  
化粧品市場に参入

### 高機能材料

- 【2004】 Arch Chemicals  
半導体関連化学品部門 買収  
半導体材料事業に本格参入

## 2010年代 成長領域の 検証期

当社が優位性を発揮できる分野を検証  
し、見極めながら積極的にM&Aを実施

- ヘルスケアにおける成長分野を  
見定め、**バイオCDMO**を中心とした  
成長投資を継続

### ヘルスケア

- 【2011】 MSD Biologics/Diosynth買収  
バイオCDMO事業に本格参入
- 【2012】 Sonosite買収・超音波診断参入
- 【2015】 Cellular Dynamics International  
(iPS細胞の開発・製造) 買収
- 【2017】 和光純薬工業買収
- 【2018】 Irvine Scientific Sales  
Company買収・培地分野の拡大
- 【2019】 Biogen(Denmark) Manufacturing  
買収・バイオCDMOの成長加速

## 2020年代 新たな価値を創出 成長期

グループのシナジー創出を加速させ、  
社会にポジティブなインパクトを  
もたらす価値の創出に注力

- 2030年度に**連結売上高3.5兆円**  
(ヘルスケア50%) を目標とする

### ヘルスケア

- 【2021】 日立製作所の画像診断関連事業を  
承継した富士フィルムヘルスケア買収
- 【2022】 Atara Biotherapeutics, Inc. の  
細胞治療薬製造拠点 買収  
Inspilata, Inc.のデジタル病理部門 買収

### 高機能材料

- 【2023】 Entegris, Inc. の  
半導体用プロセスケミカル事業 買収





## 02. 成長を牽引する事業

ヘルスケア領域では、「予防」「診断」「治療」までをカバーする、富士フイルムグループにしかできない医療バリューチェーンを形成

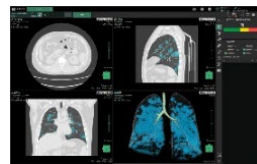
## 予防

- 健診センター
- 感染予防
- 遠隔・在宅管理
- ワクチン原薬
- 機能性化粧品
- サプリメント



## 診断

- 画像診断システム
- 医療IT
- 内視鏡
- 体外診断用医薬品(IVD)
- 超音波システム
- CT・MRI



## 治療

- 術前・術中支援
- 低侵襲治療
- 創薬支援
- バイオCDMO
- 細胞・遺伝子治療
- 医薬品



# ヘルスケアーメディカルシステム事業

幅広い診断機器のラインアップに加え、AI・IT技術を活用した「医療IT」を中核に据えることでハードとソフトの両面から医療従事者をサポートし、「診断」の質の向上に貢献

## X線画像診断



独自の画像処理技術で差別化したラインアップを展開。X線画像診断のデジタル化は、1983年に当社が世界で初めて製品化。

## 超音波



POC<sup>\*1</sup>向け携帯型分野で高い開発力を持ち、据置型と合わせて幅広い製品を展開世界シェア No.3<sup>\*2</sup>、携帯型ではNo.1<sup>\*2</sup>

## CT & MRI



## 内視鏡



当社の画像処理技術を活用して病変部の視認性を向上。粘膜の微妙な色の違いを強調し、診断をサポート。

## IVD(体外診断)



診察室など患者に近い場所で使用される臨床検査向け体外診断システムを提供。同タイプ市場において国内シェアNo.1<sup>\*3</sup>

2022年度  
メディカルシステム  
売上高  
6,218億円

医療IT

## 医療IT

X線機器など医療画像撮影装置で撮影した画像を電子データで保存し一元管理する医用画像情報システム(=PACS)といった、病院等で使用するシステムを販売。AI・IT技術を活用した様々なアプリケーションも開発しており、診断機器に搭載することで病変の検出支援などの診断サポートを可能にする



\*1 Point Of Care : 患者の目前や在宅で検査を行い、治療方針の判断・処置を行うこと

\*2 出典 : Signify Research report 2022 \*3 富士経済2020

# ヘルスケア—メディカルシステム事業

医療ITでは、AI・IT技術を活用した数々の製品・サービスにより  
病変の検出といった診断の支援やレポート作成支援が可能となり、医療従事者の負担軽減に貢献

▶ PACS : Picture Archiving and Communication Systems (医用画像情報システム)  
→ 医療機関のITプラットフォーム

<PACS世界シェア>  
**No.1**<sup>\*1</sup>

\*1 2022年度末時点Signify Research Report調べ

<世界展開施設数>  
**5,812**<sup>\*2</sup>施設

\*2 2022年8月時点、「Synapse」シリーズ設置台数



## AIを活用したPACSの導入事例：富山県立中央病院

**1** 画像の高画質化：視認性を向上

**2** 臓器セグメンテーション機能：  
臓器・血管等の位置の把握を支援

**3** 病変の検出・計測を支援：  
がんなどの疑いがある部分の検出等を支援

**4** レポート作成支援：  
診断画像をもとに作成する読影レポートの  
作成を支援

- ・ ワークフロー全体にAI技術を活用し、放射性部門の検査・読影の大幅な効率化を達成
- ・ 日勤者の検査業務終了時刻を**2時間短縮**<sup>\*3</sup>

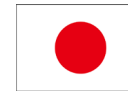
\*3 CT検査業務の日勤者の終了時刻を18時→16時に短縮

## 日本式の健診センターを新興国に展開し がんや生活習慣病の早期発見に貢献

### 日本と新興国での違い

新興国ではがん検診などの健診サービスが日本ほど普及しておらず、がんの早期発見・治療を実現できていないと考えられる

### ▼がん罹患患者の5年生存率\*



日本 : 約 7 割



インド : 約 3 割

\*国際がん研究機関 (IARC) のデータベース「GLOBOCAN 2020」より。

### 健診センター「NURA」の展開

#### ▶ 「NURA」

- がん検診を中心とした健診センター
- がんや生活習慣病の早期発見に貢献
- 当社の医療機器やAI技術を活用した、日本式の高品質な健診サービス
- 2021年にインドで開設、現在インドに4拠点、モンゴル国に1拠点の計5拠点



<受診者数>  
2023年11月末

延べ **18,000**人以上

<目標拠点数>  
2030年度までに

**100**拠点

今後も東南アジアや中東・アフリカへ展開予定  
本事業を通じ人々の健康維持増進に寄与

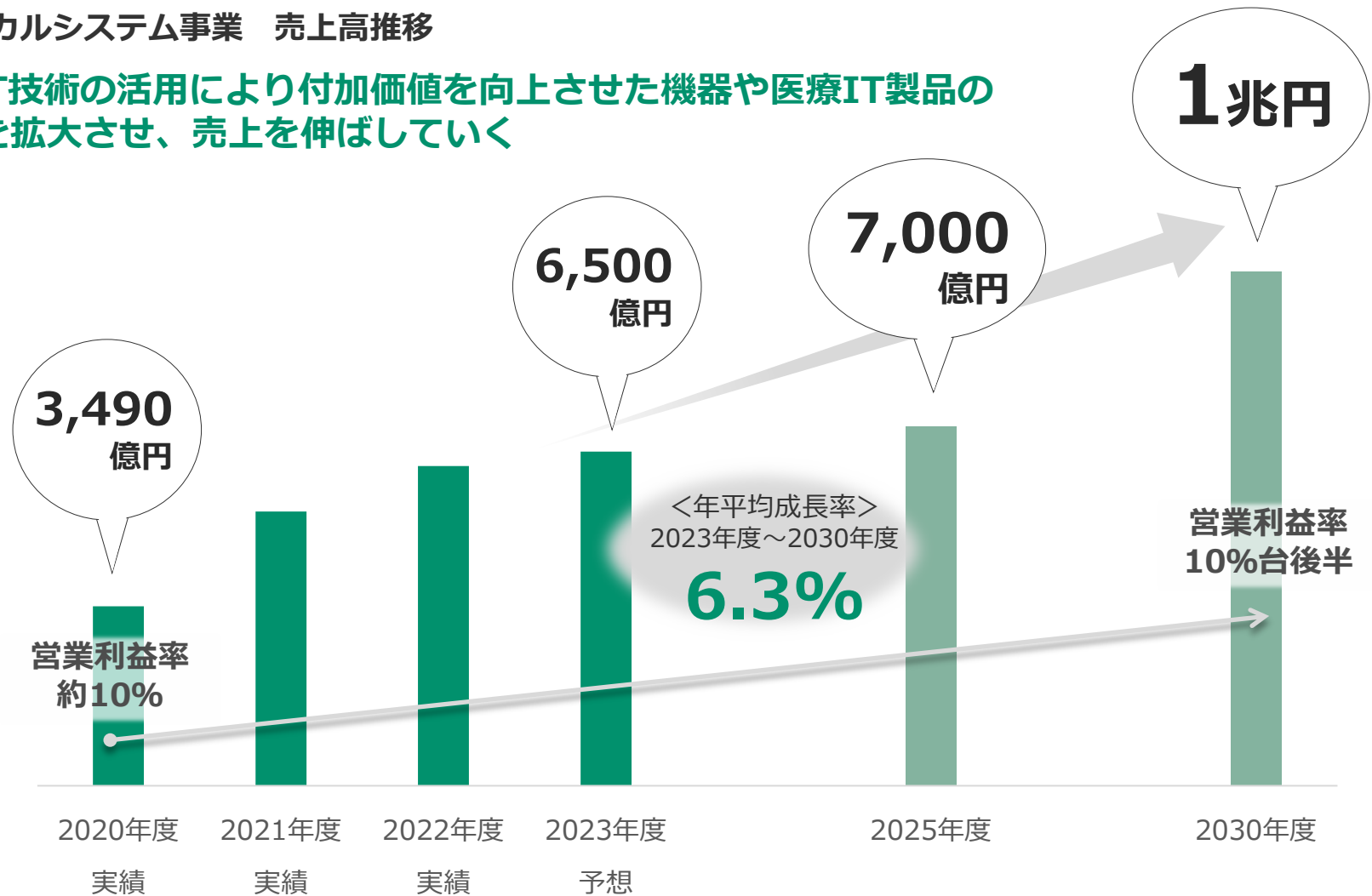


# ヘルスケアーメディカルシステム事業

2025年度に売上高 7,000億円に到達、  
2030年度に「売上高 1兆円・営業利益率 10%台後半」を目指す

## ■ メディカルシステム事業 売上高推移

AI・IT技術の活用により付加価値を向上させた機器や医療IT製品の  
販売を拡大させ、売上を伸ばしていく



# ヘルスケアーバイオCDMO事業

難治性疾患への治療効果が高いバイオ医薬品の製造を通してアンメットメディカルニーズに応える  
バイオ医薬品の市場は年率8%\*1、CDMO市場は年率15%\*2で拡大

\*1 当社調べ。医薬品市場におけるバイオ医薬品比率の2022年～2030年。 \*2 当社調べ。バイオ原薬CDMO市場(ワクチン除く)の2022年～2028年。

## バイオ医薬品とは

- 従来の低分子医薬品に比べ、
  - ① 副作用が少ない
  - ② 治療が困難であったがんや希少疾患への高い効果が期待できる
  - ③ 細胞などに薬効成分であるタンパク質を作らせて製造するため製造が難しい
  - ④ 設備投資や品質管理にかかるコストが高額
- 主なバイオ医薬品の例：  
抗体医薬品、ワクチン、遺伝子治療薬、細胞治療薬など

<バイオ医薬品 年平均成長率>  
8%\*1

## バイオCDMOとは

- CDMO… **C**ontract **D**evelopment and **M**anufacturing **O**rganization (医薬品開発製造受託機関)
- 抗体医薬品や遺伝子・細胞治療薬など高品質なバイオ医薬品のプロセス開発・製造を受託。
- 主要顧客は製薬会社。

製薬会社が新薬開発にリソースを集中させる中、  
CDMOへの委託ニーズが拡大

<バイオ医薬品CDMO 年平均成長率>  
15%\*2

当社の高度なコア技術とM&Aにより獲得したバイオテクノロジー技術を融合し  
最新鋭の設備を加えて、バイオCDMO事業を推進

## ■ 当社のバイオCDMO事業の優位性



### 自社で培った 高度な技術

- 一定条件製造技術
- エンジニアリング技術
- 生産プロセス技術

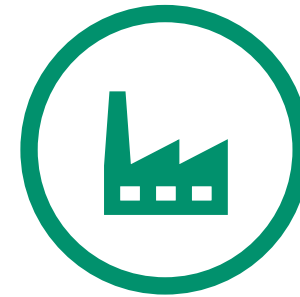


### M&A<sup>\*1</sup>によって 獲得した技術

- 細胞培養/精製・評価技術
- プロセス開発技術・ノウハウ
- 豊富な受託実績

\*1 過去のM&A

- 2011年：MSD Biologics/Diosynth  
(現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies)
- 2014年：Kalon Biotherapeutics  
(現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies)
- 2019年：Biogen (Denmark) Manufacturing  
(現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies)



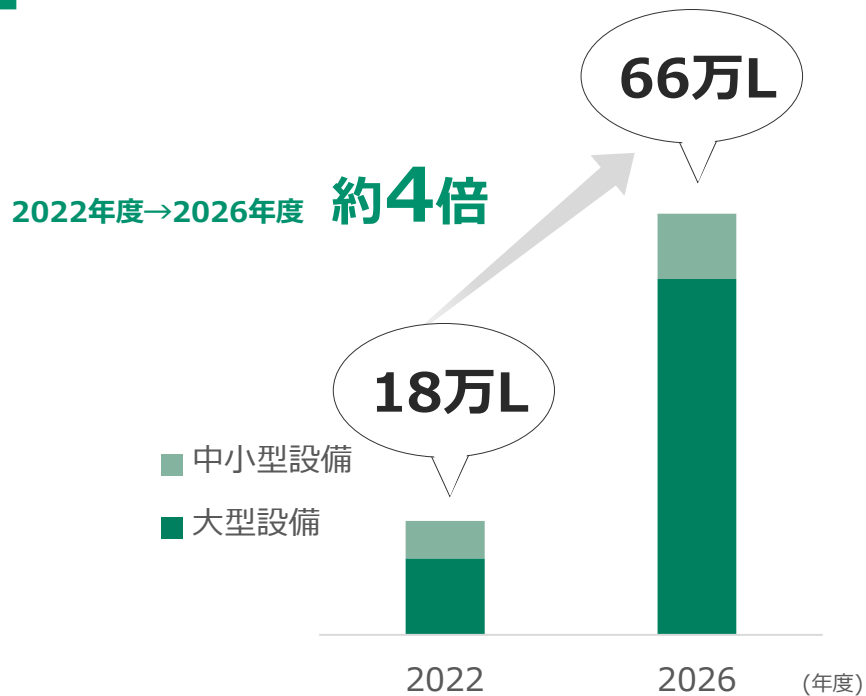
### 先進設備

- 少量～大量生産まで対応可能な設備
- 世界トップレベルのモバイルクリーンルーム<sup>\*2</sup>
- 最新鋭のプロセス開発設備

\*2 バイオセーフティレベルで、レベル3まで対応可能。  
商用生産設備としては世界トップレベルのモバイル  
クリーンルーム

バイオ医薬品市場の旺盛な需要を見越して積極的な投資を継続  
現在も主要市場である欧米に大型設備を建設中

## 当社の製造設備容量



## 主要な設備投資

### デンマーク拠点

- ・ 現在：大型設備(2万L)6基が稼働中
- ・ 2024年度：大型設備×6基稼働予定
- ・ 2026年度：大型設備×8基稼働予定  
→大型設備 計20基(40万L)

### 米ノースカロライナ拠点 (新設)

- ・ 2025年：大型設備×8基稼働予定  
→大型設備 8基(16万L)

投資（設備・M&A）累計額 **9,000億円超\***

\* 発表済み案件の合計、円換算ベース

市場成長を見越した積極投資と能力増強により事業を拡大

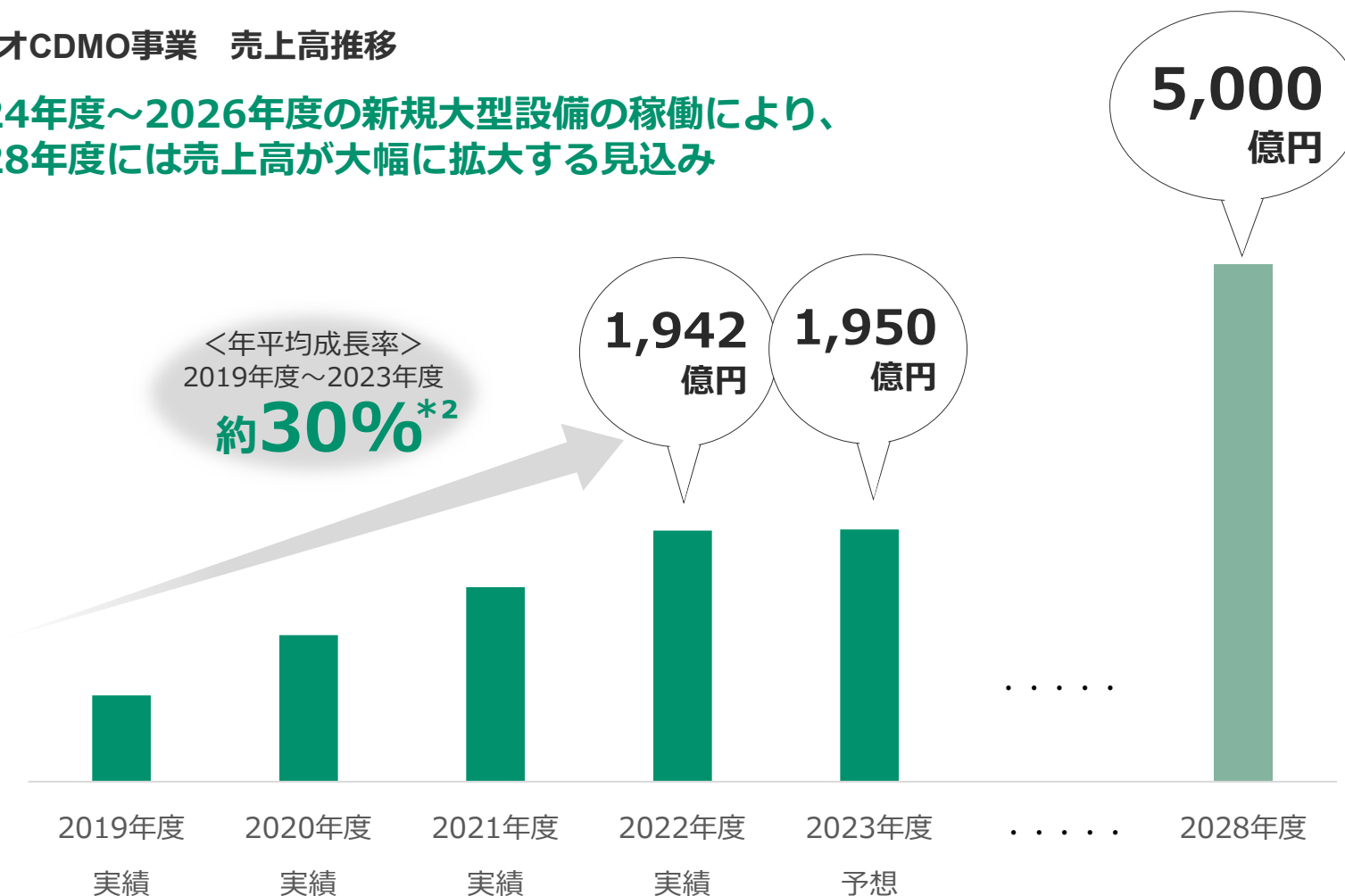
# ヘルスケアーバイオCDMO事業

バイオCDMO市場の年平均成長率15%\*1を大きく上回る年率30%\*2の事業成長を実現  
売上高5,000億円を2028年度に達成する見通し

\*1 当社調べ。バイオ原薬CDMO市場(ワクチン除く)の2022年~2028年。 \*2 2019年度~2023年度。COVID-19影響除く。

## バイオCDMO事業 売上高推移

2024年度~2026年度の新規大型設備の稼働により、  
2028年度には売上高が大幅に拡大する見込み





# マテリアルズー電子材料事業

高性能化が進む半導体の製造を支える幅広い材料を提供  
半導体メーカーのニーズに応えるグローバルな供給体制と研究開発力

## ▶ 電子材料事業

先端ロジック向けを中心に半導体の製造プロセスで使用される各種材料を提供

➔ 「**フォトレジスト**」や「**CMPスラリー**」、三次元集積化に必要な絶縁膜用「**ポリイミド**」など  
半導体の微細化・積層化を実現する幅広い先端材料



## ▼ 半導体の製造工程（前工程）



## ■ 当社の電子材料事業の強み

### 1 幅広い製品ポートフォリオ

✓ M&Aも活用し構築した広範な先端プロセス材料

### 2 グローバルな安定供給体制

- ✓ 世界20拠点\*1                      \*1 今後稼働予定の2拠点含む
- ✓ 複数拠点での製造による安定供給体制

### 3 研究開発力、顧客との信頼関係

- ✓ 各地域のR&D部門とコーポレートラボが連携
- ✓ 顧客である半導体メーカーとの迅速な商品開発
- ✓ 築き上げてきた顧客との強固な関係

# マテリアルズー電子材料事業

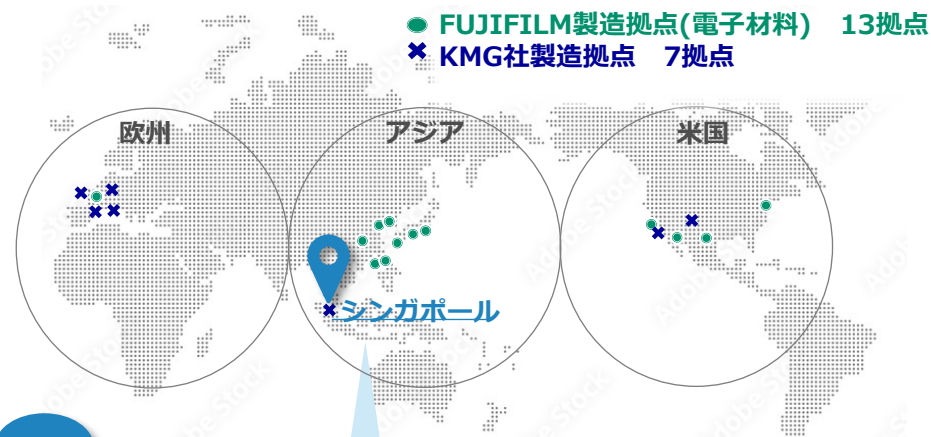
M&Aにより製品ラインアップを拡充するとともに新たに7つの製造拠点を獲得  
グループシナジーにより電子材料事業の成長をさらに加速

米国の半導体材料大手サプライヤーEntegris社から

米国・欧州でNo.1シェアを持つ  
半導体用プロセスケミカル事業を買収  
(2023年10月)

- ✓ グローバルで計20拠点\*1の強固な製造体制を構築
- ✓ 製品ポートフォリオをさらに拡充

\*1 今後稼働予定の2拠点含む

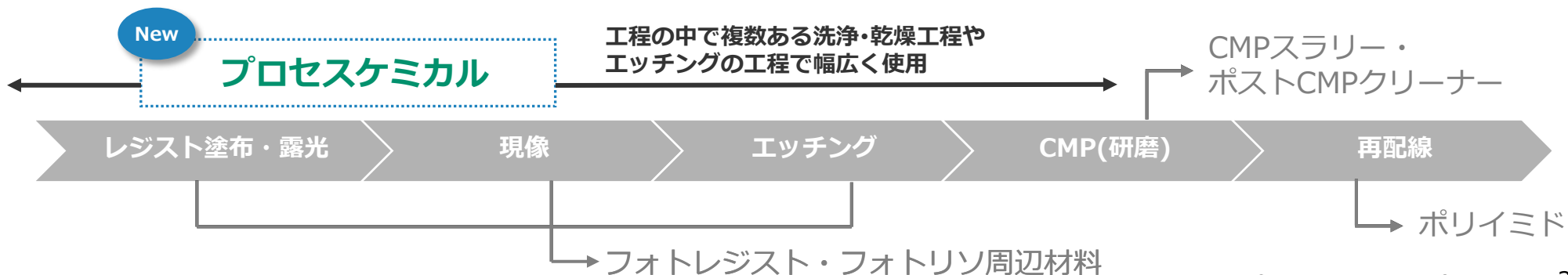


New

当社電子材料では初めて  
となる東南アジアでの  
製造拠点を取得



## 半導体材料の主な製造工程と使用される当社材料



# マテリアルズー電子材料事業

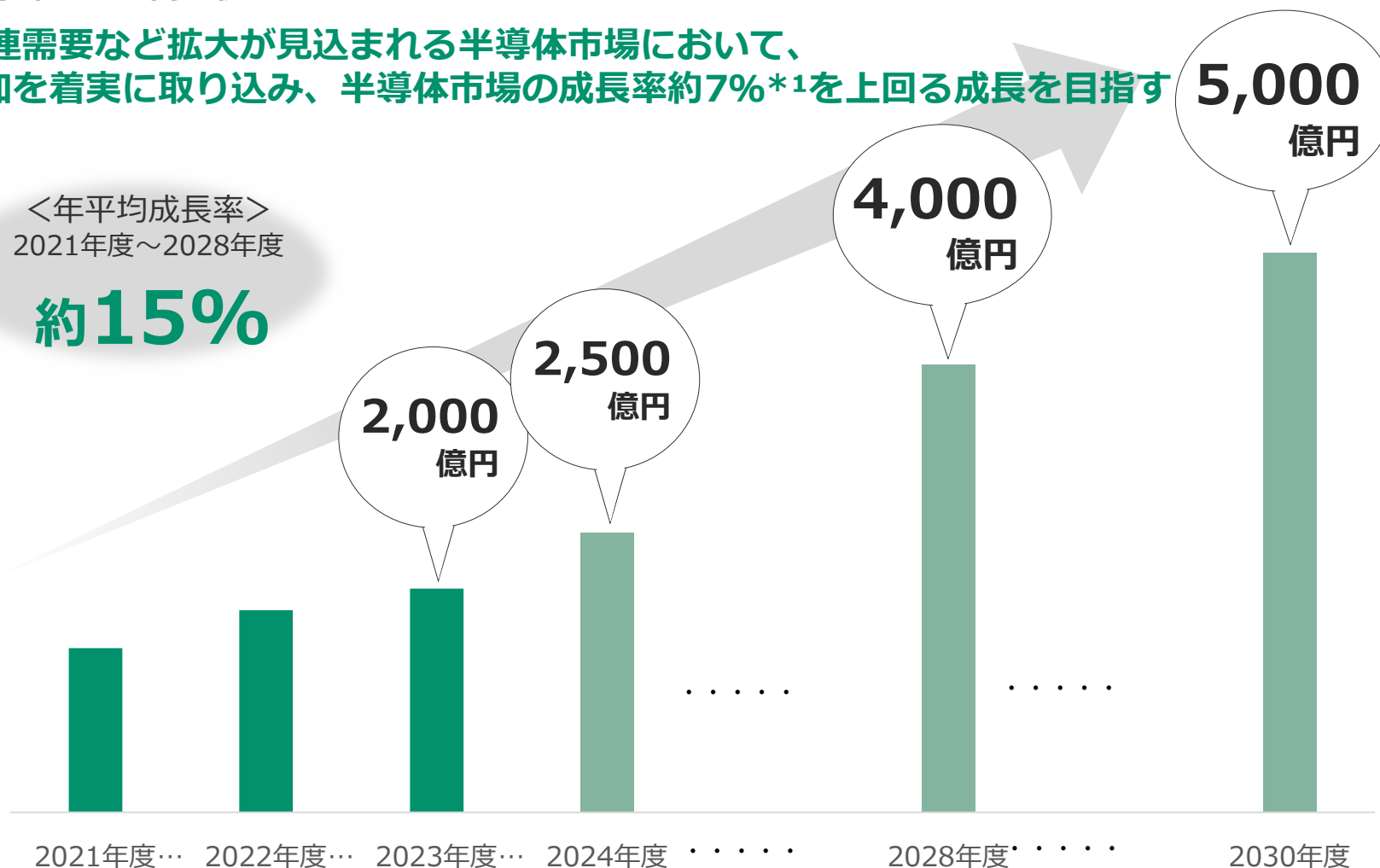
M&A効果も含め、年平均成長率 約15%の高い成長により  
2028年度に4,000億円、2030年度に5,000億円の売上高を目指す

## ■ 電子材料事業 売上高推移

生成AI関連需要など拡大が見込まれる半導体市場において、  
需要の増加を着実に取り込み、半導体市場の成長率約7%\*1を上回る成長を目指す

<年平均成長率>  
2021年度～2028年度

約15%



\*1 英調査会社「Omdia」レポートより。半導体市場における2021年～2027年の年平均成長率。



## 03. 直近の業績

# 直近の業績-2023年度業績予想

中期経営計画「VISION2023」で設定した業績目標を大きく上回り、  
売上高・営業利益・当社株主帰属当期純利益で過去最高を更新する見込み

(単位：億円)

	2022年度	2023年度 VISION2023 (2020年4月公表の 当初目標)	2023年度 最新予想 (2023年11月公表値)	対前年度	対 VISION2023 計画
売上高	28,590 100%	27,000 100%	<b>過去最高</b> <b>29,500</b> <b>100%</b>	910 +3.2%	2,500 +9.3%
営業利益	2,731 9.6%	2,600 9.6%	<b>過去最高</b> <b>2,900</b> <b>9.8%</b>	169 +6.2%	300 +11.5%
当社株主帰属当期純利益	2,194 7.7%	2,000 7.4%	<b>過去最高</b> <b>2,250</b> <b>7.6%</b>	56 +2.5%	250 +12.5%
1株当たり当社株主帰属当期純利益	547.21円	500.27円	<b>560.63円</b>	+13.42円	+60.36円
ROE	8.3%	8.4%	<b>8.0%</b>	-0.3%	-0.4%



## 直近の業績-セグメント別業績

(単位：億円)

売上高	2022年度	2023年度 最新予想 (2023年11月公表値)	対前年度	対前年 増減率
ヘルスケア	9,286	9,700	+414	4.5%
マテリアルズ	6,820	6,950	+130	1.9%
ビジネスイノベーション	8,381	8,400	+19	0.2%
イメージング	4,103	4,450	+347	8.5%
合計	28,590	29,500	+910	3.2%

(単位：億円)

営業利益	2022年度	2023年度 最新予想 (2023年11月公表値)	対前年度	対前年 増減率
ヘルスケア	1,028	1,120	+92	8.9%
マテリアルズ	654	500	-154	-23.5%
ビジネスイノベーション	695	780	+85	12.2%
イメージング	729	880	+151	20.7%
全社/連結調整	-375	-380	-5	1.3%
合計	2,731	2,900	+169	6.2%



## 04. 株主還元・株主優待

# 株主還元・株主優待

## 配当金の推移

2023年度の年間配当は、**14期連続増配**となる**150円/株**を予定  
期末配当は普通配当に加え、**10円の創立90周年記念配当**を実施



## 株主優待

<優待内容>

当社グループヘルスケア商品優待割引販売\*

<対象者>

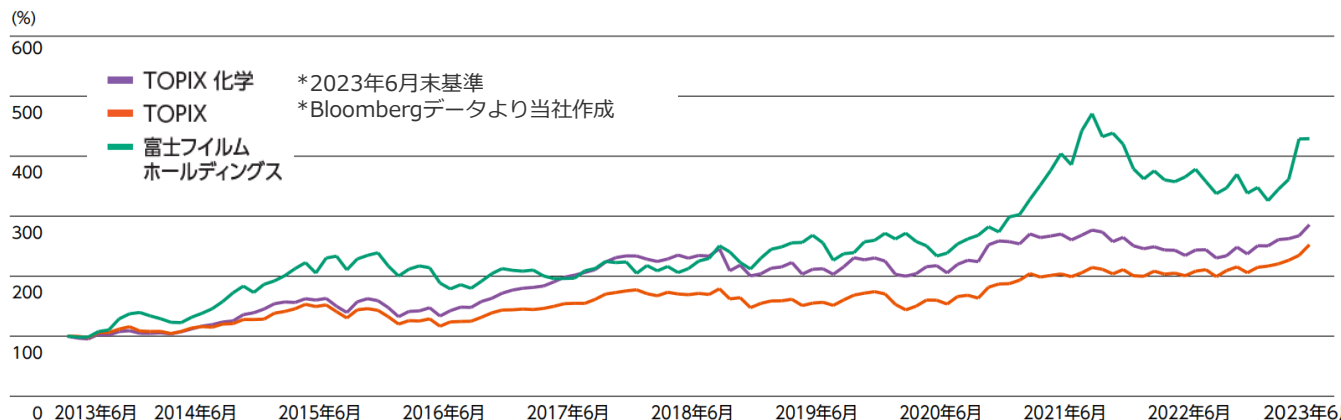
保有株数**100株以上**

\* 優待割引購入は、専用お申し込みはがき、お電話、株主様専用ウェブサイトでのみ受付可能。店頭等では使用不可。



## 株主総利回り (TSR)

- TSR (Total Shareholder Return) : キャピタルゲイン (値上がり益) と配当を合わせた総合投資収益率
- 当社は**TOPIXおよびTOPIX化学を大きく上回る利回り**を実現



投資期間 (累積利回り)	3年	5年	10年
当社	93%	109%	329%
TOPIX	58%	49%	152%
TOPIX化学	31%	24%	186%



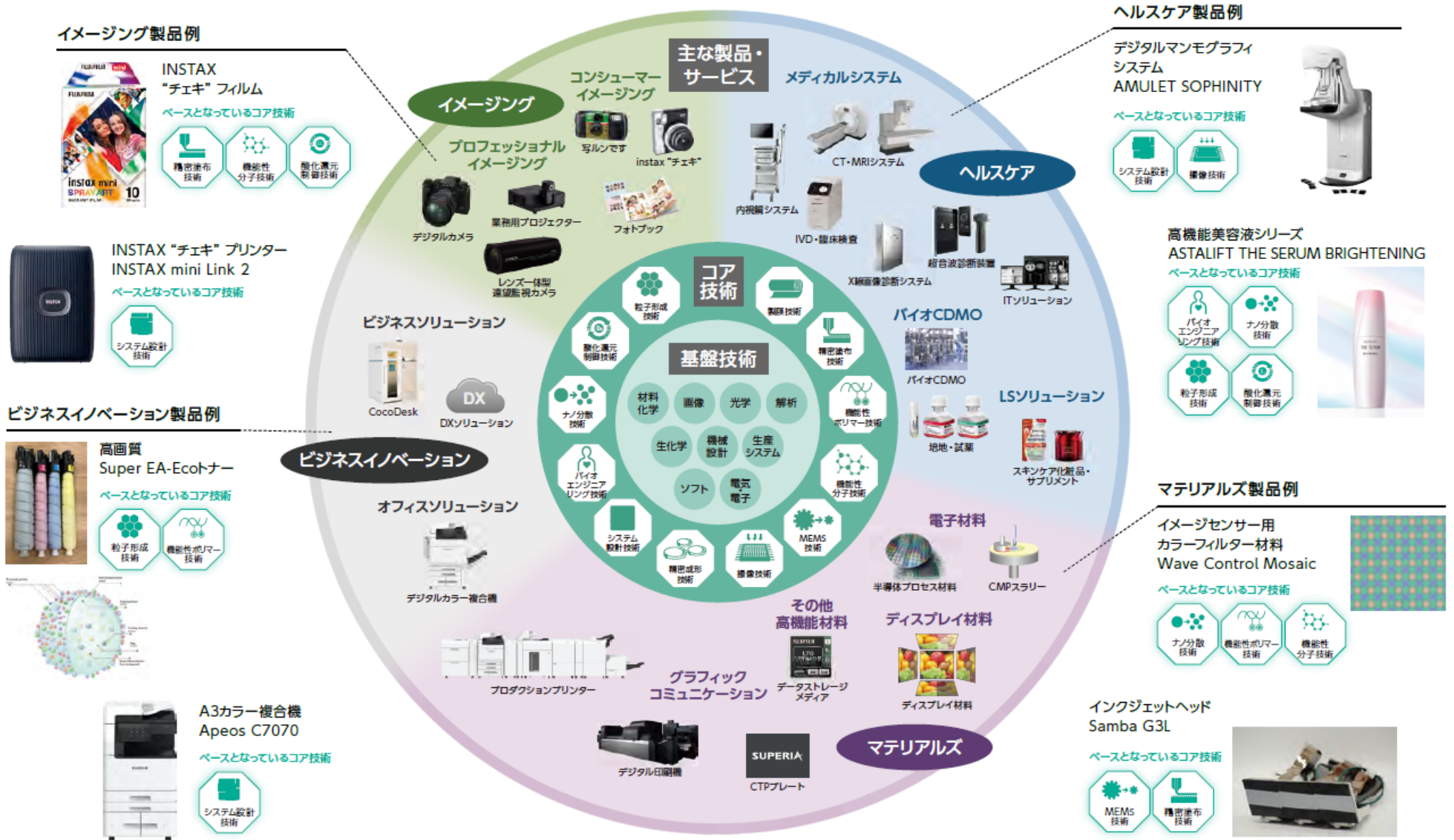
## 05. 参考情報

# 会社概要

社名	富士フイルムホールディングス株式会社	
トップマネジメント	取締役会長・取締役会議長 助野 健児 代表取締役社長・CEO 後藤 禎一	
設立	1934年1月20日	
連結売上高	2022年度	28,590 億円
営業利益	2022年度	2,731 億円
当社株主帰属当期純利益	2022年度	2,194 億円
ROE	2022年度	8.3 %
連結子会社数	2023年3月31日時点	273 社
連結従業員数	2023年3月31日時点	73,878 名



# 富士フイルムグループの独自技術



## ■ 各事業について、もっと知りたい方へ

- ▶ 事業概要資料：富士フィルムグループや各事業の基本的な説明資料 [リンク](#)
  
- ▶ 事業説明会資料：機関投資家向けに実施した事業別の説明会資料
  - バイオCDMO・ライフサイエンス事業（2023年12月14日実施） [リンク](#)
  - イメージング事業（2023年12月14日実施） [リンク](#)
  - メディカルシステム事業（2023年10月12日実施） [リンク](#)
  - 電子材料事業（2022年6月29日実施） [リンク](#)
  - その他、一覧はこちら [リンク](#)

## ■ 富士フィルムグループについて、もっと知りたい方へ

- ▶ 決算説明会資料 [リンク](#)
- ▶ 統合報告書2023 [リンク](#)
- ▶ サステナビリティレポート2023 [リンク](#)



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。